

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

外国語活動・外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究構想図	4
VI	研究の内容	5
	〈検証授業1：第4学年〉	5
	〈検証授業2：第5学年〉	8
	〈検証授業3：第5学年〉	11
VII	成果検証	14
VIII	研究の成果と課題	15

研究主題

思考をはたらかせ、豊かに表現する児童の育成 ～児童と共につくる学習を通して～

I 研究主題設定の理由

現在の子供たちが社会で活躍する頃には、日本においてはさらにグローバル化が急速に進み、私たちの生活環境は時間や距離を越えて情報に溢れた世界になるであろう。外国語によるコミュニケーション能力がこれまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが予想される。このような世界で、外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要である。

東京都教育ビジョン（第4次）第2章 基本的な方針3「グローバルに活躍する人材を育成する教育」¹では、日本人の海外留学生数は減少傾向にあり、留学を希望しない理由として「留学に興味を引かれない、能力に自信がない」が3割を超えているとの記述がある。英語での学びの基盤となる英語運用能力に自信がもてないことが、留学を思いとどまる一因となっていると言える。一方で、東京2020大会を控え、東京を訪れる外国人の数は一層増加することが予想されているように、日本においても外国人と英語でコミュニケーションを行う機会は増えるであろう。将来、児童は英語を通して、異なる言語や文化をもつ人々に自分の思いや考えを豊かに表現することでコミュニケーションを充実させ、協働することが切望される。

本年度の教育研究員の共通テーマは『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善である。本研究では、児童がめあてと一体化した振り返りを繰り返すことで、自らの学びを俯瞰的に捉えることができると考えた。さらに、既習表現を活用した言語活動を工夫すれば、場に応じた表現を選択してコミュニケーションを図ろうとすることができ、共通テーマに迫ることができると考えた。これは、昨年度の東京都教育研究員小学校外国語活動・外国語部会の研究報告書に挙げられた「活動の意図を明確にして伝え合う目的を共有することや、児童自身にコミュニケーションの工夫を考えさせる機会を十分に設けることができなかつた。」という課題を解決することにもつながる。

以上のことから、今年度は研究の主題を「思考をはたらかせ、豊かに表現する児童の育成～児童と共につくる学習を通して～」とした。

II 研究の視点

1 単元目標と学習計画の共有

単元の導入段階で、単元末の言語活動の内容や目的を児童に示す。外国語活動・外国語科における言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。提示する際には、教師とALTが活動の見本を見せる等、実際のコミュニケーション場面を示すことで、児童の興味・関心を深められると考えた。単元の到達目標となる表現や既習の

¹ 平成31年3月東京都教育振興基本計画・東京都教育ビジョン（第4次）

言語材料を共有し、その中で児童と共に学習計画を立てる。児童と学習の目的や見通しを共有しながら学習を進めていくことで、児童が主体的に学習に取り組むことができると考えた。

2 単元や授業の中間におけるフィードバック

第2時以降において、練習や活動の間に児童へのフィードバックを入れる。児童が単元の目標やより良いコミュニケーションについて再認識し、学習の自己調整ができるようにするためである。検証授業を通して次の4種類（A価値付け、B修正、C補充、Dさらなる動機付け）から教師が選択してフィードバックを行うことが重要であると考えた。児童の学習状況や取り組む姿勢を教師が把握し、意図的にフィードバックを行うことで児童の意欲を喚起し、児童が自分の学びを捉え、自己調整を図ることができる。また、児童が互いの取組や工夫から学び、より自信をもって取り組むことができると考えた。

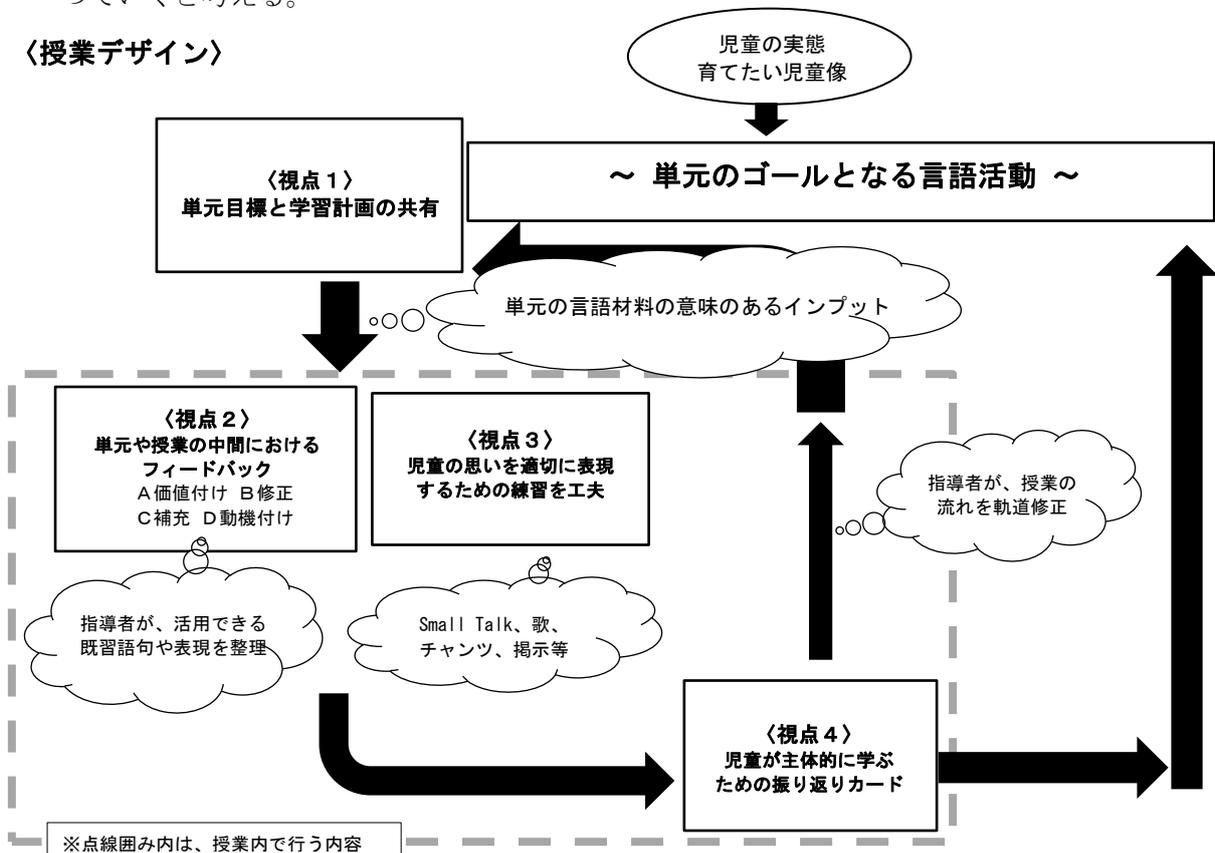
3 児童の思いを適切に表現するための練習を工夫

本研究では、単元の導入段階で児童と共に計画を立て学習を進めるが、教師は学習の進め方全てを児童に任せるのではなく、児童の学習の理解状況等を把握し、意図的に練習を加えるなどの調整をする必要がある。また、児童が「どんなことを相手に伝えたいか」「それは既習の表現を使ってどのように言うか」等を考えさせることで、自分の考えや思いを何とか表現しようとする態度が身に付くと考えた。その際に、学習カードも効果的に活用する。

4 児童が主体的に学ぶための振り返りカード

めあてと一体化した振り返りを繰り返すことで、児童が自分の学びを見通し、学習を自己調整することが期待される。単元の最後の活動に向け、現在の学習達成度や、今後学びたいことを授業の終末に考えカードに記すことで、学びの過程を振り返り、今後の学習につながっていくと考える。

〈授業デザイン〉



Ⅲ 研究の仮説

児童が自分の考えや思いをもつには、実際にコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを児童が理解していることが不可欠である。児童は目的意識をもつことで初めて、コミュニケーションの活動を自分の事として捉え、主体的に学習に向かえるようになる。そこで、単元の導入段階で「学習計画」と「主たる言語活動」を示し、児童と共有することにした。児童が「何を学ぶか」「学んだことをどのように生かすか」という学習の見通しをもつことで、「どのように工夫して表現したら良いか。」「どんなことを伝えたいか。」と自分の気持ちや考えが明確になる。さらに、単元途中で自分の学習達成状況を児童が認識することで自己肯定感が高まり、児童はより主体的に学習に取り組むことが期待される。自分自身の成長や伸びに気付くことが、次の学習へ向かう動機付けや意欲となる。また、その場に応じたコミュニケーションができるようになるためには、提示された表現のみならず、既習表現を活用することが大切である。既習表現を場の状況に応じて活用することで、児童が自分の気持ちや考えをより豊かに表現することができるようになると考えた。以上のことから、次の仮説を設定した。

児童がめあてと一体化した振り返りを繰り返すことで、自分の学びを俯瞰的に見ることができよう。さらに、既習表現を活用した言語活動を工夫すれば、場に応じた表現を選択してコミュニケーションを図ろうとするだろう。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究

次の方法により小学校外国語教育の現状・方向性の把握、児童の実態把握を行った。

(1) 文献及び各種答申等の分析

- ・小学校学習指導要領外国語活動・外国語（平成29年3月）
- ・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年7月）
- ・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省 平成29年6月）
- ・東京都教育施策大綱（平成29年1月）
- ・児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会平成31年1月21日）

(2) 先行研究の分析

- ・過去の教育研究員小学校外国語活動部会による研究報告書

(3) 質問紙調査の実施と分析

- ・教育研究員が授業を行う学級の児童を対象にした質問紙調査による課題分析

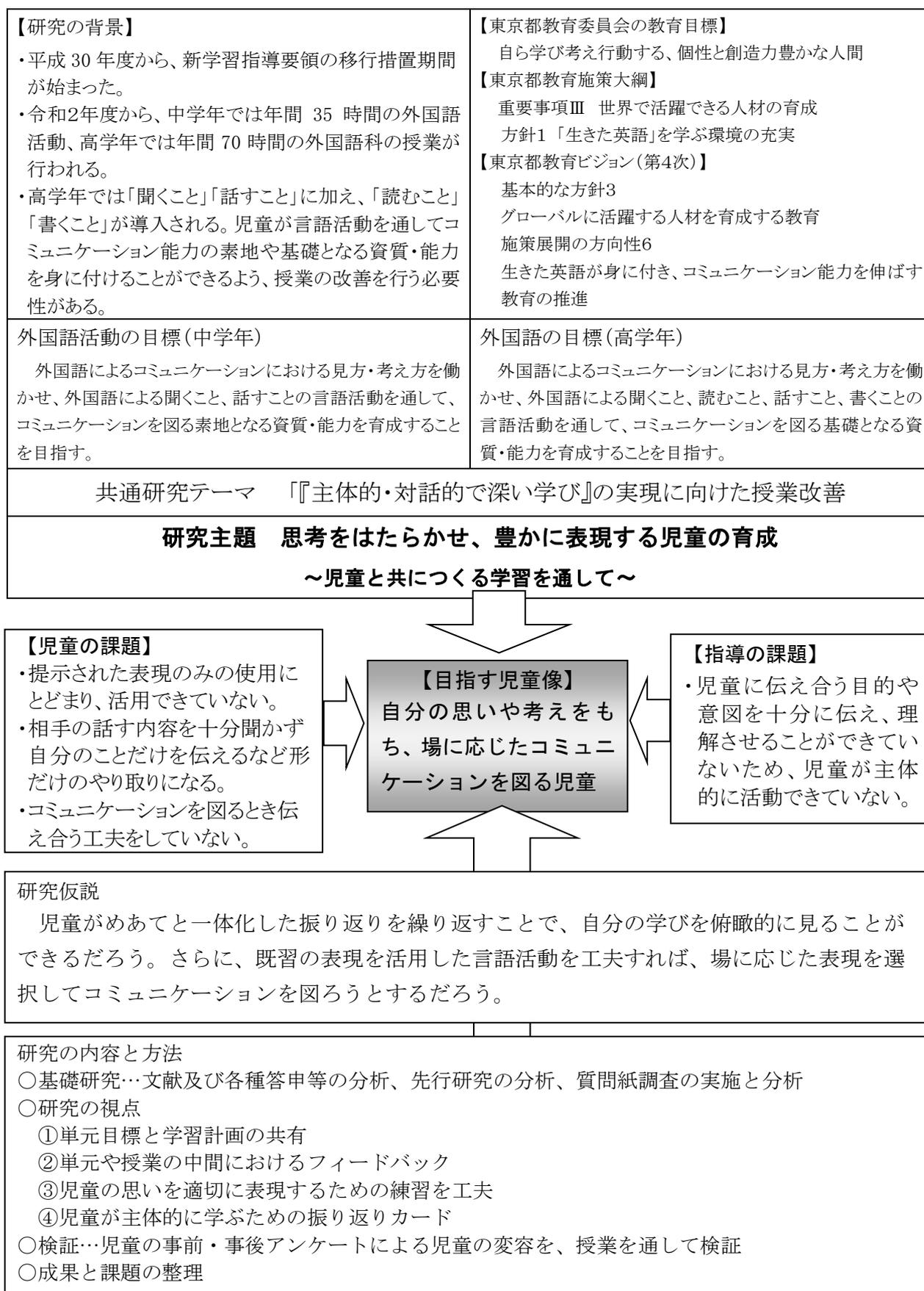
2 実践研究

基礎研究を踏まえ、研究の視点を絞り、それぞれについて具体的な手だてを構想した。また、その効果を検証するための授業を実施した。

3 研究のまとめ

各検証授業前後に児童にアンケート調査を実施し、その結果や振り返りカード、児童の活動等から授業の分析を行った。それらに基づき、研究の仮説及び手だての有効性について検証した。また、検証授業における成果と課題を踏まえ、「思考をはたかせ、豊かに表現する児童の育成」に向けた具体的な手だてをまとめた。

V 研究構想図



VI 研究の内容

【検証授業1】(第4学年)

1 単元名 What do you want? (ほしいものは何かな?)

文部科学省 小学校外国語活動教材 “Let’s Try! 2” Unit 7

2 単元の目標

- ・食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・相手に配慮しながら自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①欲しいものについて、すすんで尋ねたり答えたりしている。	①食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	①外国の市場について知り、日本との相違点や共通点に気付いている。
②本単元で学習したことやこれまで学習したことを用いながら、交流している。	②本単元で学習した語句や表現に加え、既習語句や表現を用いて活動している。	②気付いた相違点や共通点について、友達と伝え合ったり、まとめたりしている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、これまでに慣れ親しんだ様々な表現を活用した言語活動を通して、児童が場に応じた表現を選択してコミュニケーションを図ることをねらいとした。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元目標と学習計画の共有

本単元では、単元の最後に「〇〇ショップを開こう」という活動を児童と共に設定することにした。単元の導入の段階で、指導者が既出の言語材料を使用したピザショップやジュースバーを開くのを見たり、一緒にやってみたりする。それを通して、児童が本単元の最終的な活動のイメージをもてるようにした。また、学級全体で、既出の言語材料である果物、野菜、数等を扱うことを共有し、その中で、児童が自分たちで店を考え、学習計画を立てる。これらの活動を通して、本単元の言語活動の目的や意義を、児童と共有できるようにした。

(2) 単元や授業の中間におけるフィードバック

単元全体を通して、また、授業の途中に児童へのフィードバックを行う。価値付け、修正、補充、児童の姿を積極的に認めることで動機付けをし、児童が自分の学びを俯瞰し、自己調整を図っていくための手助けとなるようにする。具体的には、児童の学習状況をよく見取り、既習表現や場に応じた表現を適切に使えていれば、そのよさを伝える。一方、困っている児童や支援が必要な児童がいる場合には指導を行い、内容によっては、その内容を全体で共有し、それぞれの児童の表現が豊かになるようにする。

4	欲しいものについて積極的に尋ねたり答えたりする。	【Warming up】 前時までの復習をする。 【Let's Chant】 What do you want? 【Today's Goal】 ○○ショップを開こう。 【Activity】 店を開く。 【Feedback】【Looking Back】 振り返りカードを書く。	ア② イ②
---	--------------------------	--	----------

6 本時（第1時／4時間）

本時の目標

- ・世界の市場について知る。
- ・食材の言い方や欲しいものを伝える表現に慣れ親しむ。

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (15分)	【Greeting】 ・挨拶をする。 【Let's Watch & Think】 ・映像をみて、世界の市場と日本の市場を比べる。 【Warming up】 ①「ピザショップへ行こう」 ②「ジュースバーへ行こう」	・本単元の内容に円滑に入れるようにする。 ◎ウ①（行動観察、ワークシート） ・児童が本単元の終末の活動のイメージがもてるようにする。 ・児童が知っている語句や表現を引き出す。 ・他に必要な語句や表現を、児童から引き出す。
	A : What do you want? B : I want (potatoes), please. A : How many? B : (Two), please. A : Here you are. B : Thank you.	
展開 (25分)	【Practice】 ①「4年3組のみんなが食べたいパフェ」 ②「ALTの先生が食べたいパフェ」 【Activity】 ・友達とやり取りをし、オリジナルパフェを作る。 ・学習計画を立てる。	・自分たちが食べたいパフェの食材を伝えることを通して、欲しいものを答える表現を練習する。 ・ALTの先生が食べたいパフェの食材を聞くことを通して、欲しいものを尋ねる表現を練習する。 ・本時で使った言語材料に加え、既出の言語材料を使ってよいことを伝え、児童が知っている語句や表現を整理する。 ・本単元や既出の言語材料を使って、児童がやってみたいと思うことを引き出す。
まとめ (5分)	【Looking Back】 ・振り返りカードを書く。 【Closing】 ・挨拶をする。	・振り返りカードの書き方や書く視点を伝え、児童が次時のめあてを明確にもてるようにする。 ◎ウ②（行動観察、ワークシート）

【検証授業2】(第5学年)

1 単元名 She can run fast. He can jump high. 「できること」

文部科学省 小学校外国語教材 “We Can! 1” Unit 5

2 単元の目標

- ・自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることに気付く。(知識及び技能)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)
- ・他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に対する気付き
自分や第三者について、できることやできないことを紹介し合おうとしている。	自分や第三者について、できることやできないことを伝える表現に慣れ親しむ。またそれを言ったり聞いたりしている。	第三者を表す表現や、できることやできないことを伝える表現を知る。また、アルファベットには音があることに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、三人称(He/She)や助動詞 can を使って、自分や第三者のできることやできないことを紹介し合うことをねらいとしている。児童が思考をはたらかせ、豊かに表現できるような学習にするために、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元目標と学習計画の共有

本単元では、まとめの活動として、本単元で学習した表現や既習の語句を使った「クイズ」を作り、出し合うという言語活動を設定した。教師とALTが、児童のよく知っている人物を題材にしたクイズを出し合っている様子を示すことで見通しをもち、必要な表現を考えることができるようにした。その上で、児童と学習の目的や見通しを共有しながら学習を進めていくこととした。

(2) 単元や授業の中間におけるフィードバック

単元の第2時以降は、練習や活動の途中で児童へのフィードバックを行った。このフィードバックは、「A価値付け、B修正、C補充、Dさらなる動機付け」をすることによって、児童が自分の学びを俯瞰し、自己調整を図ることを助けたり、活動への意欲や動機を強化したりすることを目的とし、単元を通して行った。

(3) 児童の思いを適切に表現するための練習を工夫

児童が、より主体的に目標表現を身に付けることができるよう、授業の初めに行う練習を、単元の中盤から終盤には児童と相談しながら決めることとした。そのことで、児童が振り返りカードに書いた内容を活かして表現を練習し、身に付けようとする意欲をもって学習に取り

り組めると考えた。

(4) 児童が主体的に学ぶための振り返りカード

本研究では、児童が、めあてと一体化した振り返りを繰り返すことで、自分の学びを俯瞰的に見ることができるだろうと考えた。単元のゴールとなる活動に向けて、自分の達成度や、次の時間に学びたいことなどを授業の終末に考え、カードに記すことで、児童自身が客観的に自分を振り返る手だてとした。

5 単元の指導計画と評価計画（全8時間扱い）

時	目標	学習活動	評価規準
1	学習の見通しをもつ。できること・できないことを表す表現を知る。	【Today's Goal】 学習の見通しの共有 【Practice】 できる・できない、動きを表す言葉の練習 【Activity】 キーワードゲーム 【Let's Listen】 誰のことを言っているか聞いてみよう 【Reflection】 振り返りカード・学習の見通しの把握 言語材料：動作(play [the recorder / the piano] , ride a [bicycle / unicycle] , swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well), can, can't, I can(can't)____.	ウ
2	できること・できないことを表す表現に慣れ親しむ。文字には音があると気付く。	【Today's Goal】 できること、できないことを表す表現に慣れよう 【Practice】 アルファベットジングル・復習等 【Activity】 キーフレーズゲーム 【Feedback】 英語表現や態度面の観点を共有 言語材料：Can you～? Yes, I can. / No, I can't.	イ・ウ
3	できること・できないことを表す表現を使う。	【Today's Goal】 できること、できないことを聞いてみよう 【Let's Watch and Think】 映像を見て考えよう 【Activity】 Pencil meeting 【Feedback】 英語表現・コミュニケーションへの助言	ア・イ
4 (本時)	三人称に出会う。文字の音に慣れ親しむ。	【Today's Goal】 有名人のできることを表そう 【Practice】 有名人の「できること」を聞こう。 【Activity】 カードエクステンジ 【Feedback】 英語力の向上を図る修正・価値付け 言語材料：he, she, Mr., Ms., He(She) can(can't)____.	イ ウ
5	三人称に慣れ親しむ。	【Today's Goal】 先生クイズを作ろう 【Let's Watch and Think】 映像を見て考えよう 【Activity】 先生についてのクイズ作り・インタビュー 【Feedback】 ねらいの確認・修正	ア

6	できること・できないことを使ってクイズを出し合い、表現に慣れ親しむ。	【Today's Goal】 先生クイズを出し合おう 【Activity】 グループでのクイズの実施 【Feedback】 英語力・コミュニケーション面の確認 【Activity】 友達へのインタビュー	ア・ウ
7	インタビューしたことを整理し、クイズを作る。	【Today's Goal】 友達クイズを作ろう 【Activity】 文字を4線に記入 【Activity】 既習語句・表現を使ってクイズ作成 【Feedback】 単元末の言語活動の表現確認・修正	ア・イ・ウ
8	「これは誰でしょうクイズ」をラリー形式で発表し合う。	【Today's Goal】 クイズ大会をしよう 【Activity】 クイズラリーの実施 【Feedback】 コミュニケーション・態度面の確認	ア・イ・ウ

6 本時（第4時／8時間）

本時の目標 三人称を知り、使おうとする。

	活動内容	・指導上の留意点 ◎評価
導入 7分	【Greeting】 挨拶 【Warming up】 small talk 既習表現の確認・三人称の学習 【Today's Goal】 有名人のできることを表そう	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードの内容に触れながら、学習計画を振り返り、今日のめあてを確認する。 ・スポーツの話をし、できること・できないことに触れる中で、三人称を導入する。
展開 30分	【Practice】 <ul style="list-style-type: none"> ・有名人の「できること」を聞こう ・児童が知っている人、今まで来校した有名人の紹介（5名）を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (例)He is ○○. He is 11 years old. He can do <i>ayatori</i>. </div> 【Activity】 カードエクステンジ <ul style="list-style-type: none"> ・例示した有名人のカードを使って交流する。 【Feedback】 英語力の向上を図る修正・コミュニケーション面の価値付け <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを活かしてもう一度活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がよく知っている有名人やアニメのキャラクター、以前来校したアスリート等を示して三人称の使い方の導入をする。 ◎イ（行動観察） <ul style="list-style-type: none"> ・三人称の言い方は丁寧に繰り返し、自然と一・二人称との区別ができるようにする。 ・提示した有名人のカード（裏面に説明文あり）を3枚ずつ生徒に配る。生徒は友達と1枚選び説明し合う。説明したカードは交換する。最後にKEYカードを持っていた児童5～6名が全体の前に出て、見本を見せる。 ・三人称や、canのあとに続く動詞の間違いの例を取り上げ確認する。また、相手に伝わるように声の大きさや話す速さ等に配慮できている児童を褒める。 ◎ウ（行動観察、ワークシート）
まとめ 8分	【Reflection】 振り返り 【Closing】 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・本時にできたこと、次の時間に学びたいことを丁寧に振り返らせる。

【検証授業3】 (第5学年)

1 単元名 I want to go Italy. (行ってみたい国や地域)

文部科学省 小学校外国語教材 “We Can! 1” Unit 6

2 単元の目標

- ・国名や有名な場所・食べ物について、聞いたり言ったりすることができる。また、それらを書き写すことができる。 (知識及び技能)
- ・行きたい国について、有名な場所・食べ物を紹介する表現を用いて、理由も含めて伝え合う。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・他者に配慮しながら、行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを伝え合ったりしようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①他者に配慮しながら、行きたい国や有名な場所・食べ物について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりしようとしている。	①国名や有名な場所・食べ物について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 ②有名な場所や食べ物を紹介する表現に慣れ親しんでいる。	①世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、新出表現である“Where do you want to go?”の表現を用いて、児童自らが勧める国を紹介する活動を行った。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元目標と学習計画の共有

本単元では、単元の最後に児童が教師へおすすめの国を紹介するという言語活動を児童と共に設定した。単元の中で、ALTとのモデルとなるやりとりを示すことで、児童が本単元の最後の活動をイメージでき、児童が学習の見通しや目的を共有しながら学習を進めることができるようにした。

(2) 単元や授業の中間におけるフィードバック

児童が単元のゴールまでの意欲を高くもち、進んで学習していけるよう活動の間や終わり等にフィードバックを行った。その内容や目的としては、「A価値付け、B修正、C補充、Dさらなる動機付け」の四つの視点であり、単元を通して、授業の活動途中や終末など児童たちの状況に応じて、適宜行った。

(3) 児童の思いを適切に表現するための練習を工夫

事前のアンケート結果より、児童が行ってみたい外国の中から10か国を取り上げた。児童が興味のある国を取り上げることで学習への動機付けを行った。また、取り扱う国の数を10か国に絞ることで、話し手も聞き手も互いに共通確認ができ、安心して取り組むことができると考えた。

(4) 児童が主体的に学ぶための振り返りカード

授業の終末に、学習の達成度や次時に学びたいことを考えることで、客観的に自分の学びを振り返られるようにした。その振り返りを教員が適切に価値付けることで、児童自らが、自分の学びを俯瞰的に見ることができると考えた。更には、単元のゴールまでの見通しをもち、モチベーションを保ちながら、自分の学び方を調整しながら学習に取り組むことができると考えた。

5 単元の指導計画と評価計画（全6時間扱い）

時	目標	主な学習活動	評価 規準
1	世界の人々の様々な生活、国名や有名な場所の表現に気付き、単元の見通しをもつ。	【Warming up】 small talk 【Today's goal】 学習の見通しの共有 【Let's Watch and Think】 映像視聴 【Activity】 I want to go to__. を練習 【Reflection】 振り返り・学習の見通しの共有 言語材料：America, France, Egypt, Australia, the Statue of Liberty, the Eiffel Tower, the Pyramids, Where do you want to go? I want to go to__.	ウ①
2	国名や有名な場所・食べ物についてについて尋ねたり答えたりする表現を聞き取っている。	【Today's goal】 国名や有名な場所・食べ物の名前を知ろう 【Let's Listen】 【Activity】 ・国旗カードで、行きたい国のインタビュー 【Feedback】 単元のめあての確認（動機付け）	イ①
3	国名や有名な場所・食べ物について紹介する表現に慣れ親しむ。	【Today's goal】 色々な国の有名な場所・食べ物を伝え合おう 【Activity】 おすすめの国の紹介 【Feedback】 練習した表現・発音の確認（補充）	イ②
4 (本時)	国名や有名な場所・食べ物について、理由も一緒に紹介する表現に慣れ親しむ。	【Today's goal】 おすすめの国を理由も一緒に紹介する表現を練習しよう。 【Activity】 マッチングゲーム、語句・表現の練習 【Feedback】 良かった点等の確認（価値付け・補充）	イ②
5	おすすめを紹介する表現に慣れ親しみ、例を参考に国を紹介する文章をまとめ、書き写す。	【Today's goal】 おすすめの国を紹介する内容をまとめよう。 【Activity】 推薦する国と有名な物等の選択・決定 【Feedback】 次の活動に向けた表現の確認（修正）	イ① イ②

6	他者に配慮しながら、 おすすめの国について 紹介し合う。	【Today's goal】おすすめの国をみんなで紹介しよう。 【Activity】班の中で、国の紹介文の発表 【Feedback】発表の観点の確認（価値付け）	ア① イ②
---	------------------------------------	--	----------

6 本時（第4時／6時間）

本時の目標 国名や有名な場所・食べ物について、理由も一緒に紹介する表現に慣れ親しむ。

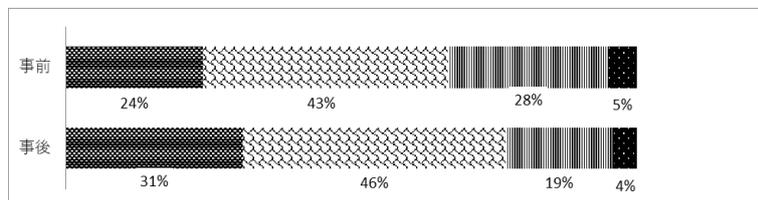
	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 5分	<p>【Greeting】挨拶</p> <p>【Warm up】既習の表現を確認する。</p> <p>【Today's goal】おすすめの国を理由も一緒に紹介する表現を練習しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の各自の振り返りを踏まえ、全体で学習目標を確認する。
展開 35分	<p>【Practice】既習事項を確認する。</p> <p>【Activity1】マッチングゲーム</p> <p>【Activity2】 おすすめする国紹介の表現を練習する。 ○活動の流れを理解するために、教師のデモンストレーションを見る。 次に教師と児童のやりとりを行う。</p> <p>A: Where do you want to go? B: I want to go to ____. You can see / eat ____. It's ____ / I like ____.</p> <p>A: Oh, you want to go __. That's nice.</p> <p>○10か国の絵カードから、自分がおすすめしたい国を選ぶ。</p> <p>①班のペア同士で、おすすめの国はどこか、何ができる（食べる・見る）のか、その理由を紹介し合う。</p> <p>【Feedback】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の練習で良かった点を具体的に伝え、困ったことや言いたい表現の確認をする。（価値付け・補充） ②列ごとに移動した状態で、おすすめの国はどこか、何ができる（食べる・見る）のかを紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の名所や食べ物を写真で見せる。 ・同じ国の相手を見つけることだけでなく、既習の表現を使えているかも意識して行うことを確認する。 ・事前に記録したALTとのデモンストレーションを動画で示し、ゴールのイメージをもちやすいように説明する。 教師⇄全体、教師⇄児童、児童⇄児童の順に、見せていくことで、活動内容を児童がより理解しやすくなるようにする。 <p>◎有名な場所や食べ物を紹介する表現に慣れ親しんでいる。（イ② 行動観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって伝えている、理由をしっかりと伝えられている様子を全体で取り上げ、良い点として確認する。また理由など、新たに言いたい表現・言葉がないか確認し、ある場合には状況に応じて伝えていく。 ・同じ国（有名な場所や食べ物）になった際でも、理由も同じなのか気付いたり、違った理由を言いたいか考えたりするように声掛けする。
まとめ 5分	<p>【Reflection】振り返り</p> <p>【Closing】挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で、できたこと、次回頑張りたいことを振り返ることができるように声掛けする。

VII 成果検証

1 事前・事後アンケートの結果

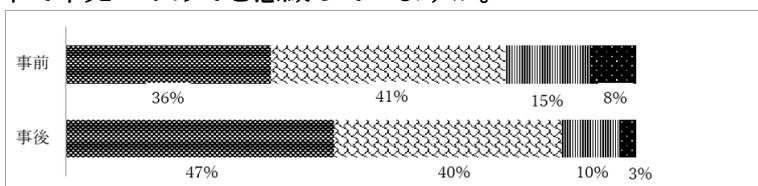
本部会教育研究員の所属校において、検証授業を受けた児童 258 名を対象とし、単元の指導前と指導後にアンケートを行った。結果は次のとおりである。

質問 1 英語を使って自分の思いや考えを友達や先生に積極的に伝えようとしていますか。



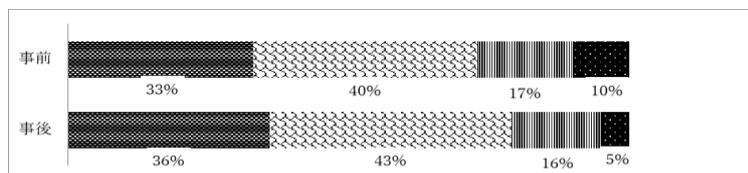
■ 伝えようとしている □ どちらからといえば伝えようとしている ▨ どちらかといえば伝えようとしていない ■ 伝えようとしていない

質問 2 授業の中で単元のみあてを意識していますか。



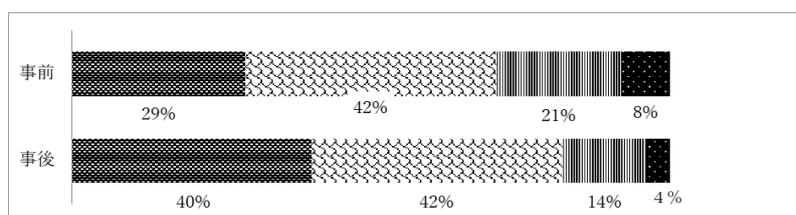
■ 意識している □ どちらからといえば意識している ▨ どちらかといえば意識していない ■ 意識していない

質問 3 今まで習ったことや、知っている表現を使って、友達や先生と会話をしようとしていますか。



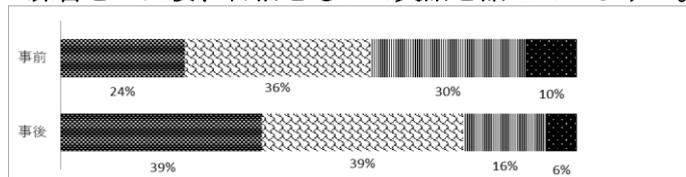
■ している □ どちらからといえばしている ▨ どちらかといえばしていない ■ していない

質問 4 振り返りカードに書いた内容を次の活動に生かそうとしていますか。



■ 生かしている □ どちらからといえば生かしている ▨ どちらかといえば生かしていない ■ 生かしていない

質問 5 たくさん練習をした後、自信をもって英語を話せていますか。



■ 話せている □ どちらからといえば話せている ▨ どちらかといえば話せていない ■ 話せていない

VIII 研究の成果と課題

1 成果

事後アンケートの結果、全ての質問項目に対して肯定的な回答が増えた。英語を使って進んで自分の思いや考えを伝えようとする児童や、自信をもって発話したり、既習の表現を活用したりする児童が増えたと考えられる。

(1) 児童の思いを適切に表現するための練習を工夫

全ての検証授業で、児童と共に学習計画を立て、単元のめあてを確認し、学習を進めた。教師は事前に児童の興味・関心や思い等を調査して、学習計画に取り入れるようにした。例えば、検証授業1の「オリジナルパフェ作り」や検証授業3の「おすすめの国紹介」では、児童の思いを取り入れた活動を設定した。児童は、自分の思いや気持ちを友達に伝えることで、友達と関わる楽しさや英語でのコミュニケーションの楽しさを感じていたようである。

また、友達に聞いてもらえたという達成感を感じた児童もいた。アンケート結果からも「英語を使って自分の思いや考えを友達や先生に積極的に伝えようとしている」「自信をもって英語を話している」児童が検証以前より10%以上増えた。このことから、児童が主体的に授業や活動に取り組むには、児童の思いを取り入れ、児童自身の考えや気持ちを伝えられる機会を設定することが重要であることが明らかとなった。

(2) 児童に見通しをもたせる「振り返りカード」の工夫

振り返りカードに単元を通して学習する観点「challenge points」「study points」を載せ、児童がいつでもめあてや単元の学習の流れを確認できるようにした。検証授業1「What do you want?」の第1時では、「challenge points」を確認することで、全児童が単元のめあてを理解し、学習の見通しをもつことができた。また、毎時間の授業の終わりには、「学習のできたことやがんばったこと、気付いたこと」「次の時間にできるようにになりたいこと」等を振り返る時間を設定した。児童が自分の学習を振り返り、次の学習への見通しをもつとともに、教師が児童の学習状況を見取り、次の授業へ生かすことができた。検証授業3では、児童が興味をもっている国や場所を意図的に取り上げたり、必要な表現を児童から引き出したりすることで、より児童の思いを取り入れた授業構成ができた。事後アンケートからも児童が単元のめあてを意識して、学習に取り組んでいることや、振り返りカードに書いた内容を次の学習に生かそうとしていることが明らかになった。

(3) 効果的なフィードバックの実施

検証授業2では、「カードエクスチェンジ」の途中と活動後と計2回のフィードバックを行った。活動の途中にフィードバックの時間を取ることで、児童が未知の表現や既習表現などを確認することができ、英語運用能力の向上につながった。フィードバック後の活動では、1回目よりもより積極的に既習学習を生かして会話をしようとする児童が増えた。

また、活動後のフィードバックでは、教師が児童に評価を行うことで、児童の次回への学習への意欲付けにつながった。振り返りカードに「英語で友達のクイズを出すのが楽しみだ。」「もっと練習をしてクイズを出したい。」等の肯定的な記述が多く見られた。事後アンケートの「今まで習ったことや、知っている表現を使って、友達や先生と会話をしようとしていますか。」(質問3)に対しても肯定的な回答した児童が増えたことから明らかである。

2 課題

(1) 授業の中で適切なフィードバックを行うための工夫

検証授業を通して、授業途中での教員によるフィードバックが、児童の「学習への意欲付け」や「表現の幅を増やすこと」へとつながることが明らかになった。教員が授業の中で児童の様子を的確に見取り、その様子に応じてA価値付け（良かったところを具体的に褒める等して、良い取り組み方の観点を児童に理解させたり、確認したりする。）、B修正（表現の間違いやすいところやルール等を確認する。）、C補充（困ったことを聞いて支援したり、英語で言いたい表現を尋ねたり、教えたりする。）、Dさらなる動機付け、を行うことでその後の言語活動が充実した。短時間で児童たちの状況を見取り、分析し、適切なフィードバックを行うためには、教師が助言する観点を明確にしなければならない。単元計画を立てる中で「児童が英語で言いたいこと」「児童同士の言語活動で起こる問題とその修正」等、起こりうる状況のある程度予測したり、他の組や学年での児童の様子を教員間で共有したりするなど、指導する側が対応できる準備をしておくことが必要である。

(2) 既習表現を児童自身で振り返ることができる工夫

本研究では豊かなアウトプットを引き出すために、既習表現等の視覚化を手だての一つとし、教室内に掲示するなどの工夫をしてきた。色や食べ物などの名詞や国名などの固有名詞は単語を絵や写真で表しやすく、視覚刺激から音声を想起させることができた。検証授業においても、児童たちが教室内の絵や写真等を手掛かりに英語でやり取りを進めようとする姿が見られた。しかし、高学年では内容がより高度になり「概念的や抽象的な語句が増え、英文も長くなる」ため、絵や写真のみで必要な英語を想起させることが難しい。

ある程度英単語が読める児童は、文字を手掛かりに既習の表現を確認する様子が見られたが、まだ英単語が読めない児童は手掛かりが少なく困っている様子も見られた。英語を読むことにまだ慣れ親しんでいない児童が、文字を読まなくても既習表現を振り返ることができる教材の工夫が今後も必要である。

(3) 言語活動に求める内容の深みと英語力の定着

必然性があり思考力が求められる言語活動は、児童にとって魅力的であり主体的に取り組もうとする姿勢を引き出しやすい。しかし、発達段階に即して言語活動の内容に深みをもたせようとするほど、必要となる英語の情報量が増え、児童にとって練習が不十分なまま言語活動に取り組むことになったり、児童が本当に伝えたいことを英語で表現するにはまだ難し過ぎたりすることがあった。そのため「英語での」言語活動が、日本語の多い活動になることがあった。また、言語活動に積極的に取り組み、その場では英語を意欲的に使っているように見えた児童でも、実は単元を中心となっていた英語表現が定着していなかったというケースもあり、言語活動の充実や意欲的な態度が、児童の英語力とは必ずしも比例しないこともあった。児童の英語力定着の目標と、言語活動の内容に齟齬がないかを慎重に見極めながら単元を組み立てる必要がある。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・外国語活動・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
港 区 立 港 南 小 学 校	主任教諭	三 和 あかね
江 東 区 立 南 陽 小 学 校	主任教諭	米 山 繁
大 田 区 立 入 新 井 第 五 小 学 校	主任教諭	中 山 彩 美
荒 川 区 立 汐 入 小 学 校	主任教諭	武 田 智 美
板 橋 区 立 加 賀 小 学 校	主任教諭	細 田 和 香 奈
江 戸 川 区 立 篠 崎 第 三 小 学 校	主幹教諭	○煙 山 有 美
八 王 子 市 立 陶 鎔 小 学 校	主幹教諭	◎竹 村 大 介
三 鷹 市 立 羽 沢 小 学 校	主任教諭	千 葉 布 紀 子
町 田 市 立 忠 生 第 三 小 学 校	主任教諭	三 原 愛 子
東 京 都 立 小 平 特 別 支 援 学 校	主任教諭	阪 口 菜 津 子

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 佐々木 真吾

平成 31 年度(2019 年度)
教育研究員研究報告書
小学校・外国語活動・外国語

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849